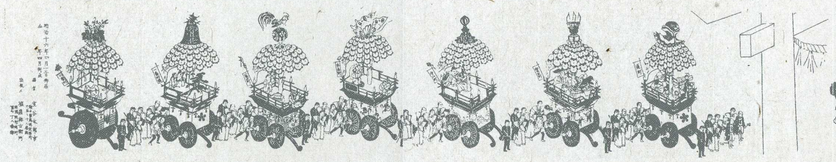
写真／高岡市立博物館提供



「越中国高岡關野神社祭礼繁盛略図付録」／高岡市立博物館提供

高岡開祖 前田利長公を祀る

高岡關野神社参拝の栞

宗教法人 高岡關野神社

〒九三三―〇〇二三
富山県高岡市末広町九番四十三号
電話 〇七六六―二五―二四九一番

御祈祷の案内

●安産祈願（帯祝）
無事の出産に神の御加護を祈願する。

●初宮詣
生後三十日あるいは百日に感謝と健康と幸福を祈願する。

●七五三詣
人生の節目節目に子どもの成長と感謝をこめて祈願する。
男女三歳で髪置の祝い
男子五歳で袴着の祝い
女子七歳で帯解の祝い

●入学・卒業・就職の奉告と祈願

●厄祓（年齢は数え年で）
男子／二十五歳（本厄）　女子／十九歳（本厄）
四十二歳（大厄）　三十三歳（大厄）
六十一歳（本厄）　三十七歳（本厄）

●長寿のお祝
還暦（六十一歳）　古希（七十歳）
喜寿（七十七歳）　傘寿（八十歳）
米寿（八十八歳）　卒寿（九十歳）
白寿（九十九歳）　上寿（百歳）

祭事こよみ

一月一日　歳旦祭
一月十四日　左義長
一月二十五日　天満宮祭
二月十一日　紀元祭
二月十七日　祈年祭
四月三日　興四兵衛祭
四月三十日　春季例大祭　前夜祭（宵祭）
五月一日　春季例大祭　御車山祭
五月二日　春季例大祭　後日祭
五月二十一日・二十二日　天神祭　利屋町
六月三十日　夏越の大祓
八月二日　古木大神宮祭　坂下町
八月九日・十日　西の宮祭　守山町
大國祭　木舟町
市姫祭　小馬出町
八月第三日曜日　興四兵衛祭　二番町
八月十九日・二十日　布袋祭　通町
住吉祭　一番街通
八月二十三日・二十四日　秋葉社祭　御馬出町
九月九日　秋季例大祭　前夜祭
九月十日　秋季例大祭　獅子祭
九月十一日　秋季例大祭　後日祭
十一月上旬　孝子祭（孝子六兵衛奉賛会）
十一月十五日　七五三の祈願
十一月二十三日　新嘗祭
十二月三十一日　師走の大祓
毎月一日　月次祭
十五日　望日祭

●土木・建築についての祈願
・地鎮祭
工事の安全無事故と完成の祈願をする
・上棟祭
棟木をあげるに当たり、一層の御加護を祈願する。
・竣工祭
工事竣工を奉謝し、永く御神恩を垂られるよう祈願する。

●店舗改装・修繕・転居の祈願

●新車の祈願

●旅行安全の祈願

●家祈祷

神前結婚式

雅楽演奏により神前にて二人の結婚を報告し、幸せを祈願します。
※詳細については、社務所までご相談ください。

神輿渡御と御車山祭

高岡御車山の行列次第が記録された「御祭礼行列調理帳（高岡市史中巻三七一）によると、遅くとも享保元年（一七一六）に、また、大坪家文書「正一位關野神社正一位加久弥神社御祭禮行列」（宝暦十三年（一七六三）末三月）でその存在が確認できます。明治十六年（一八八三）の「越中国高岡關野神社祭礼繁盛略図付録」という木版画には、大旗、獅子頭、神馬、八人の母衣武者等が神輿・御車山を先導している様子が描かれており、往時の祭礼の賑やかな様子がよくわかります。

現在では、五月二日に神輿二基が御車山の奉曳（ヨイヤ）とは別に、氏子町内を渡御しています。博労町、元町、梶原町、平米町、宮脇町一丁目、利屋町等が、母衣（甲冑）・大小の纏などを母衣宿で飾り、また、右記の宮脇町一丁目を除く各町のほか鴨島町・袋町の町内役員は紋付き羽織袴の正装で神輿、御車山を迎えています。鴨島町の大旗は、町内に立てられています。

史料によると、江戸時代には右記の町内以外にも、白銀町、片原横町、鴨島町などの母衣武者が大小の纏、床机持ち（小姓）などを従え、行列にも参加していたようです。

御祭神　前田利長公

前田利長公は、永禄五年（一五六二）一月十二日、尾張国愛知郡荒子（名古屋市）において、加賀藩祖利家の長男として生まれました。幼名は犬千代（後に孫四郎）、初名は利勝、後に利長と改めます。織田・豊臣の武将として戦い、数々の戦功を挙げ、越前府中、加賀松任、越中守山、そして富山の城主になり越中支配の基礎を築きました。

慶長三年（一五九八）利長公三十七歳の時、利家から家督を譲り受け、金沢城に入りました。この後、徳川方として戦功を挙げ加越能三国一二〇万石の大々名として地位を確立しました。

慶長十年（一六〇五）利長公は四十四歳で家督を利常に譲り富山に隠居しましたが、慶長十四年（一六〇九）富山大火により、新たに射水郡關野に築城し、『詩経』の一節「鳳凰鳴矣于彼高岡（ホウオウナクカナリソレカタカオカ）」からとり、『高岡』と名づけ、町を開きました。

慶長十九年（一六一四）「我死なば、すなわち天下自ら統一して太平ならん」と言い残し五月二十日に高岡でその生涯を閉じました。享年五十三歳。利長公は神霊として「稲荷社」（後の高岡關野神社）に祀られ、また、利常により造営された法圓寺（後の瑞龍寺、平成九年国宝指定）に菩提を弔われ、高岡の地で安らかに眠っています。

『高岡御車山勢揃い』
写真／高岡市提供

高岡御車山祭

國指定重要有形民俗文化財
富山県指定有形文化財（工芸）
國指定重要無形民俗文化財
日本遺産

高岡御車山祭（タカオカオンクルマヤママツリ）は、例年五月一日に行われる高岡關野神社の春祭りの行事です。

この祭りは天正十六年（一五八八）に、豊臣秀吉が聚楽第に後陽成天皇をお迎えしたときに使用した御所車を、加賀藩祖前田利家が秀吉より拝領し、二代目前田利長公が慶長十四年（一六〇九）高岡城築城の際に、これを町民に与えて關野神社の神輿に伴って巡行させたことに始まるといわれています。この時に、城下の大町七ケ町に賜った山車を尊称して「御車山」と呼ぶようになりました。

昭和三十五年六月九日指定
昭和四十二年三月二十五日指定
昭和五十四年二月三日指定
平成二十七年四月二十四日認定

京都祇園の祭礼にならって鉾山に改造され、高岡關野神社の春季例大祭に神輿と共に曳き廻されてより以来、今日に至るまで高岡の発展と共に継承されてきました。

『御車山』は、御所車形式に鉾を立てた古代信仰の形式を今に伝える点が高く評価されています。

高岡町民の心意気と財力に支えられ、格式を保ち、高岡の金工、漆工、染織等の優れた工芸技術の装飾が車輪や高欄、長押等に施された日本でも屈指の華やかな山車です。

写真／富山県立図書館提供

『本殿三社』

御祭神

・天照皇大神　アマテラスオオミカミ
・國常立尊　クニトコタチノミコト
・伊弉冉尊　イザナミノミコト
・倉稲魂命（稲荷大神）　ウカノミタマノミコト
・菅原道真命　スガワラノミチザネノミコト
・前田利長命　マエダトシナガノミコト
・速玉男命　ハヤタマノオノミコト
・事解男命　コトサカノオノミコト
・大宮売命　オオミヤメノミコト
・猿田彦神　サルタヒコノカミ
・三毛入野命　ミケヌノミコト

本社境内末社御祭神

『産霊社』　高皇産霊神　神皇産霊神 ―― 通町鎮守の神
『秋葉社』　火産霊神 ―― 御馬出町鎮守の神
『西の宮』　言代主命 ―― 守山町鎮守の神
『大國社』　大國主命 ―― 木舟町鎮守の神
『市姫社』　市杵島姫命 ―― 小馬出町鎮守の神
『住吉社』　表筒男命　中筒男命　底筒男命 ―― 一番街通り鎮守の神
『弥真進社』　弥真進大人命 ―― 二番街鎮守の神
『天満宮』　天満天神 ―― 利屋町鎮守の神
『琴比羅社』　崇徳天皇　大物主神
『松尾社』　大山咋神　市杵島姫命
『開運社』　猿田彦神　天鈿女命
『大黒社』　大黒天

本殿

『御神木　シモクレンと拝殿』
高岡市保存樹木

高岡關野神社縁起

『高岡關野神社（タカオカセキノヤジンジャ）』は、關野神社（熊野社）、高岡神社（稲荷社）加久彌神社（神明社）の三社が起源であります。

關野神社は、天暦二年（九四八）に射水郡熊野村蜜蔵寺（現在の水戸田）に祀る熊野大権現を、關野の尾坂（堀上町）へ遷座し、『熊野社』と称したのが起源であります。慶長十四年（一六〇九）に、前田利長公が高岡城築城に際し、上関村（現在の神主町）へ遷座し、享保十一年八月（一七二六）に社名を正一位關野神社と改称し、その後文化三年二月（一八〇六）に現在地（高岡市末広町九番四三号）へ遷座しました。

また、高岡神社は慶長十五年（一六一〇）に、前田利長公が高岡城鎮護のために建立された『稲荷社』が起源であります。慶長十九年（一六一四）利長公没後、利常は前田利長公を神霊として祀り、上関村熊野社へ遷座し、その後、文化三年三月に現在地へ遷座し、明治十一年九月（一八七八）に社名を高岡神社と改称しました。

加久彌神社は、上関、下関、鴨島一帯を神領とする奈良時代創建の古社で、「延喜式」神名帳登載の射水郡十三座の一つである「神明宮」であったとされています。発祥の地は、現在の上関地内神主町であり、五社等之由来帳（石川県立図書館蔵）によれば、天平時代には、大伴宿弥家持卿が宝鏡を奉納したと伝えられています。その後文化三年二月に現在地へ遷座し、明治維新後は、關野神社に合祀せられ、『神明社』と改称しました。

大正八年（一九一九）に、県社高岡神社と郷社關野神社が合祀して、県社高岡關野神社と改称しました。

『高岡關野神社』は、文化三年二月に現在地に遷座されて以後、俗に**高ノ宮**と呼ばれ、高岡の開祖前田利長公を奉祀する唯一のお宮として多くの人に親しまれています。